Shinto News

2025.1

第74号

令和7年

新年ご挨拶

新年あけまして おめでとうございます

旧年中は格別のご高配・ご指導を賜り、誠に有難うございました。
新年を迎え、皆様のご健勝と益々のご活躍をお祈り申し上げます。

昨年は元日早々の能登半島地震、記録的な猛暑や能登半島地震被災地の記録的な大雨、物価上昇、衆院選での与党過半数割れ、長期化するロシアのウクライナ侵攻やイスラエルのガザ侵攻、韓国の戒厳令発令、など大変な状況が続きました。2024「今年の漢字」は、パリオリンピック・パラリンピックでの数多くの「金」メダル獲得、大谷翔平選手の50−50達成と3回目のMVP獲得などの値千「金」の活躍、佐渡島の「金」山の世界遺産登録、政治とカネ・裏「金」問題、闇バイトによる「金」目当ての強盗事件の多発、などを反映して「金」が選ばれました。さらに、7月に20年振りに新紙幣が発効され千円札の肖像が我々の大先輩でもある北里柴三郎博士になり、12月には日本被団協のノーベル平和賞受賞もありました。

2025年の干支は、「乙巳（きのとみ）で柔軟性と適応力を象徴する「乙」と再生と変化を意味する蛇を表す「巳」が組み合わさっており、努力を重ね物事を安定させていく縁起の良さを表しており成長や変革の年とされています。明るい話題が続き、平和で元気な日本となる1年になって欲しいものです。

昨年は4月に医師の働き方改革が本格的にスタートし、6月の診療報酬改定、第8次医療計画の策定と併せて、医療を取り巻く環境はますます厳しくなっています。新型コロナウイルス感染症の先行きも未だ不透明で、当院でも入院・外来とも患者さんがコロナ前に戻らないという、相変わらず厳しい運営状況が続いています。2040年を見据えた新たな地域医療構想に向け、社会情勢を加味した診療報酬制度の確立によって堅強な医療提供体制を再構築することを強く望んでいます。

我々は人口構成の変化に伴う医療需要を把握して自院の立ち位置と役割を再認識し、4月から診療スタッフの強化を図るとともに、地域の医療・介護施設との更なる連携を強化して、地域のニーズに応え、信頼される病院を目指して、引き続き職員一同頑張って参ります。

本年もご支援・ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

2025年（令和7年）元旦

理事長 藤山 重俊

理 念

私たち
くまもと森都総合病院は
質の高い医療を通じて
地域に愛され、親しまれる
病院を目指します。

基本方針

1. 患者さんとの良好なパートナーシップを築き、満足度の高い、心かよう医療の提供に努めます。
2. 地域医療機関との連携を密にし、地域に根ざした医療サービスを推進します。
3. 優れた医療人を育成し、安全で質の高い医療を提供します。

KUMAMOTO SHINTO General Hospital

つながる医療。ひろがる未来。
医療法人 創起会
くまもと森都総合病院
〒862-8655 熊本市中央区大江 3-2-65
TEL 096-364-6000（代表）
FAX 096-362-5204
https://www.k-shinto.or.jp

令和7年

新年ご挨拶

新春の候、皆様には ますますご健勝のこととお喜び申し上げます

2025年の幕開けにあたり、私たちくまもと森都総合病院職員一同、心よりのお慶びを申し上げます。

本年は、日本の医療界にとって昨年に続く大きな転換点となることが予想されています。高齢化がピークを迎える「2040年を見据えた新たな地域医療構想」が本格的に議論される中、当院でも外来・入院体制をどのように再構築するべきか、熊本の地域医療の未来を見据えた取り組みをさらに深めていかなくてはなりません。

特に、医師の働き方改革が進む中、当院では年間時間外勤務960時間以内の「A水準」を維持しながら、医師の負担軽減と質の高い医療提供の両立を目指しています。そのため、多職種連携を基盤としたタスクシフトを一層推進し、医療チーム全体で効率的かつ質の高い医療を提供してまいります。

また、地域医療においては医師の偏在が深刻化し、新研修医制度や専門医制度の導入後、いわゆる「直美問題」も影響し、熊本県内では現場で働く若手医師が著しく減少しています。当院は熊本大学各医局のご支援により勤務医を確保していますが、将来に備え、専門医による質の高いがん診療を基盤としつつ、総合診療科を中心に地域包括ケア病棟を活用した高齢者救急やポストアキュート患者の支援をさらに充実させることで、地域医療を支えていく所存です。

さらに、医療分野におけるデジタル化の流れが加速する中、「マイナ保険証」の利用促進や「医療DX総合確保方針」の実現が重要なテーマとなっています。当院では、患者さんの利便性向上やデータ活用の効率化に取り組むと同時に、「病院サイバー対策の拡充」を進め、個人情報の保護やシステムの安全性向上に万全を期しています。こうした取り組みを通じて、患者さんが安心して医療を受けられる環境を提供していくことが私たちの使命であると考えています。

一方で、昨年の診療報酬改定により、医療機関の経営環境はますます厳しさを増しています。本年も原資不足やコスト増加が予想される中で、職員の働きがいを確保しつつ、質の高い医療を持続可能な形で提供するという課題に取り組んでまいります。当院は効率的な運営と自助努力を続けながら、患者さん、そして地域社会に貢献できる病院としての役割を果たしてまいります。

2025年も、私たちくまもと森都総合病院は、患者さんと共に歩み、地域医療の未来を見据えた挑戦を推進してまいります。本年が皆様にとって健康で幸多き一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

院長 鈴島　仁

2024年度
地域医療連携の集い開催報告

2024年11月26日（火）ホテル日航熊本に於いて、「2024年度 地域医療連携の集い」を開催いたしました。

本会は病病・病診連携の促進を目的として例年開催しており、本年当初は7月31日に開催を予定しておりましたが、県内の新型コロナウイルス感染状況を鑑みて延期させていただきました。今回は振替開催となったにもかかわらず、当日は約300名の皆様にご来場いただきました。

１部総会では、鈴島院長が「当院の現状について」ご報告を行い、現在の診療体制や医師の働き方改革への対応などについてご説明いたしました。続けて、私（肝臓・消化器内科部長）と永井産婦人科部長よりそれぞれ診療科紹介を行い、診療実績や現在の診療体制などをご報告いたしました。

２部懇親会は、熊本市医師会会長の園田寛先生よりご挨拶をいただき、乾杯のご発声とともにスタートいたしました。各テーブルでは「お久しぶりですね。お元気でしたか。」などの声が数多く飛び交っていたことが印象的でした。最後は大佐古副院長が閉会の挨拶を述べ、盛会のうちに終えることができました。会の中で先生方からいただきました当院へのご希望やご期待の声を診療に反映させて参ります。

地域医療連携室長
肝臓・消化器内科部長
宮瀬　志保

今後とも当院の医療連携におきまして格別のご高配を賜りたく、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

▲ 園田寛熊本市医師会会長ご挨拶の様子

▲ 鈴島院長の講演の様子

最近のトピックス Topics

神経性食思不振症における肝障害

総合診療科部長　吉田　健

食思不振や、体重減少を主訴に受診される患者さんのうち、ときに、神経性食思不振症（AN）の患者さんがおられます。AN患者の中で、血液検査で顕著な肝障害を認める例があります。

AN患者では、タンパクやエネルギーの栄養の失調をきたし、その結果として様々な臓器障害をきたすことがあります。

AN患者における肝障害は、飢餓による肝障害と再給餌の両方によって引き起こされる可能性があり、それぞれの病因と管理はこの二つの病態によって異なります。したがって、これらの病態の診断と管理を確実にするために、患者の経過や特徴を注意深く特定する必要があります。

ANは体重が増加することの恐れや、ボディイメージの障害に特長づけられる摂食障害です。深刻なタンパクエネルギー障害は種々の合併症を引き起こします。心血管系や、呼吸器系や、血液系や、筋骨格系や、神経系や、内分泌系や、皮膚疾患や、消化器系などがあり、肝障害も含まれます。肝の合併症では、血液検査で、AST、ALT、ALP、γ-GTP、ビリルビンの上昇が認められます。諸報告では、肝障害の合併は、ANの12%～ 50%に認められるとされています。

飢餓による肝障害と再給餌症候群による肝障害について、二つの病像は似ている部分もありますが、そのマネジメントは異なります。飢餓による肝障害の患者には適切なカロリーの補給が必要です。ただし、循環状態が悪くなっている患者に過剰な容量負荷は避けなければなりません。一方で、再給餌症候群の患者では再給餌による脂肪肝の進行を避けるために栄養のサポートを減らす必要があります。

AN患者は栄養補給の前と、栄養補給を行っている間にも顕著なトランスアミナーゼの上昇がみられることもあり、ケースによっては、激しい肝障害が、飢餓によって起こったのか、再栄養によって起こったのか判別が難しいこともあり、注意が必要です。

ちなみに、再給餌症候群(refeeding syndrome)に関連しては、日本では鳥取城の「兵糧攻め」に係る事象が最古の事例と判明し、世界的に貴重な記録であるとして、鹿野らにより2023年に国際医学雑誌（The American Journal of the Medical Science）に英文論文が掲載されています。「信長公記」や「豊鑑」に、飢餓の環境から助けられた人々のうち、多くの粥を食べたものはすぐに死に、少しずつ食べたものは生き残ったとする記述があることを述べられており、興味深い内容です。

橋口清明部長

診療科紹介　緩和ケア科

新しい年を迎え、いつも緩和ケア病棟の運営にご協力いただいていることに御礼申し上げます。

緩和ケア科は、当院が新しく大江に移ったときに作られました。緩和ケア科は、医師一人体制です。

診療領域は、①緩和ケア病棟での診療、②緩和ケア外来での診療、③緩和ケアチームとしての一般病棟での患者対応、です。

緩和ケア病棟では、がん自体に対する積極的治療ではなく、患者さんの心と体のつらさを和らげるための治療やケアを行っています。患者さんのお気持ちを大切にして、おだやかにお過ごしいただけるように、医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、管理栄養士、理学療法士、がチームを作り、患者さんとご家族のサポートを行っています。患者さんのみならずご家族のお気持ちも大切にしています。

患者さんは、院内のみでなく、院外からもたくさんご紹介いただいています。当院に診療科があるご病気だけでなく、診療科がないご病気の患者さんもたくさん入院されています。年度別の入院数と、2023年度の疾患をお示しいたします。（図１、図２）

緩和ケア病棟で行っているケアは、次の５つです。

1. **症状のケア**
   痛みや倦怠感などのつらい症状を取り、より良く過ごしていただけるようにします。
2. **こころのケア**
   患者さんお一人お一人のこころに寄り添う医療をおこないます。
3. **その方らしさを尊重したケア**
   患者さんの人生観や個性を大切にしています。
4. **ご家族のケア**
   家族は第二の患者とも言われます。ご家族の悩みやつらさを少なくするようにご家族に寄り添います。
5. **在宅療養を支えるケア**
   家で過ごしたいと思われる患者さんの思いを大切にして、在宅療養支援診療所や訪問看護ステーションと連携して、ご自宅での療養をサポートします。

症状の緩和には、薬剤のみならず、ケアによる症状緩和も提供しています。

こころのケアは、腫瘍精神科にご協力いただいて、おこころに寄り添うようにしています。

在宅医療を支えるケアは、在宅で過ごされている患者さんの、短期間の症状緩和のための入院や、レスパイト入院を積極的に受け入れています。

ご自宅に帰られる際には、訪問診療や訪問看護をお願いして退院していただいています。ご自宅では訪問診療の先生に診療していただいて、入院が必要な時にはまた緩和ケア病棟に入院していただくようにしています。

緩和ケア外来では、薬剤の処方のみならず、お気持ちのケアもおこなっています。また、緩和ケア病棟からご自宅に帰られた方の通院治療も受け持っています。

緩和ケアチームは、一般病棟でがん治療中の患者さんをはじめ、非がん患者さんにも対応しています。多職種で苦痛症状を軽減する診療を行っています。一般病棟から緩和ケア病棟への入院をお手伝いしますし、一般病棟からご自宅に帰られるときのサポートもいたします。

地域の先生方と連携して、緩和ケアを必要としている方を、お支えしていきます。

（緩和ケア科部長　橋口 清明）

図１　年度別緩和ケア病棟入院患者数

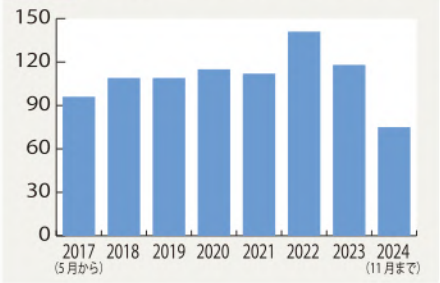
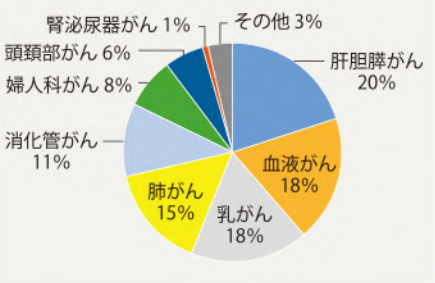


図２　2023年度　入院患者疾患内訳



『第33回 Shinto公開医学講座』のご案内

テーマ　アレルギー性結膜疾患の基礎とセルフケア

日　時　2025年1月16日（木）17：30～

場　所　くまもと森都総合病院 5F 大会議室

講　師　眼科 医長　草野 雄貴

開催方法　ハイブリッド開催（Web 参加も可能です）

参加方法　下記 URL もしくは QR コードよりお申し込みください。
お申し込み確認後、招待メールをお送りさせていただきます。
（https://bit.ly/49uEX0K　）

医療法人 創起会
くまもと森都総合病院

外来診療担当医一覧

〒862-8655
熊本市中央区大江三丁目2番65号
TEL 096－364－6000（代表）
FAX 096－362－5204
URL：https://www.k-shinto.or.jp

受付時間　午前 8:00～11:00（再来機の受付は7:30より開始）　※急患はこの限りではございません　2025年1月1日現在

	午前/午後	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内科診療：午前〔初診及び再診〕・午後〔再診のみ〕						
総合診療科	午前	濵 諒輔 初診	吉田 健	宮村 智裕	吉田 健	宮村 智裕
		宮村 智裕 再診	濵 諒輔	吉田 健 再診		濵 諒輔
	午後			宮村 智裕 再診 訪問診療		
肝臓・消化器内科	午前	藤山 重俊	宮瀬 志保	藤山 重俊	宮瀬 志保	柚留木 秀人
		柚留木 秀人	泉 見奈	東野 奈津己	東野 奈津己	泉 見奈
内視鏡担当	午前	宮瀬 志保	東野 奈津己	宮瀬 志保	柚留木 秀人	宮瀬 志保
		東野 奈津己	柚留木 秀人	柚留木 秀人	泉 見奈	東野 奈津己
		泉 見奈		泉 見奈		
血液内科	午前	藤原 志保	藤原 志保	下村 泰三	藤原 志保	下村 泰三
		大徳 勇人	鈴島 仁	渡邊 祐子	渡邊 祐子	宮川 寿一
			宮川 寿一			
	午後	下村 泰三	渡邊 祐子		宮川 寿一	大徳 勇人
					鈴島 仁	
腫瘍内科	午前	山本 春風	采田 志麻		采田 志麻	山本 春風
	午後		山本 春風			采田 志麻
循環器内科	午前	中村 尚太		中村 尚太	中村 尚太	中村 尚太
	午後	中村 尚太		中村 尚太		
腎臓内科	午前				水足 謙介	水足 謙介
	午後	水足 謙介				
リウマチ膠原病内科	午前	高岡 宏和 初診	高岡 宏和 再診		高岡 宏和 再診	
	午後			高岡 宏和 再診		
呼吸器内科	午前			古川 嗣大（熊大） 再診		
代謝・内分泌内科	午後			有馬 由佳（熊大） 再診		
外科	午前	横山 幸生	手術	横山 幸生	横山 幸生	田嶋 ルミ子
		田嶋 ルミ子				
	午後	手術 検査	手術	手術 検査	手術 検査	検査
乳腺センター（乳腺外科） 午前 8:30～12:00 午後 14:00～16:00 （完全予約制）	午前	初診担当医 再診	手術	初診担当医 再診	手術	初診担当医 再診 手術
	午後	大佐古 智文	大佐古 智文	大佐古 智文	大佐古 智文	大佐古 智文
		中野 正啓	中野 正啓	中野 正啓	中野 正啓	中野 正啓
		藤末 真実子	藤末 真実子	藤末 真実子	藤末 真実子	藤末 真実子
産婦人科	午前	永井 隆司	永井 隆司	永井 隆司	永井 隆司	永井 隆司
		岡島 翠	岡島 翠	岡島 翠	岡島 翠	岡島 翠
	午後	片渕 秀隆（女性相談外来） 手術	片渕 秀隆（女性相談外来） 手術	手術	片渕 秀隆（女性相談外来） 手術	永井 隆司 予約
						岡島 翠 検診
整形外科（完全予約制）	午前		砥上 若菜 再診	髙田 興志 再診		
	午後					担当医 再診
リハビリテーション科	午前				細川 浩 再診	
眼科（完全予約制）	午前	草野 雄貴	草野 雄貴	草野 雄貴		草野 雄貴
		藤崎 雅彦	藤崎 雅彦	藤崎 雅彦 9:30診療開始	手術	藤崎 雅彦 9:30診療開始
		松本 光希	松本 光希 9:30診療開始			
	午後	手術	担当医 再診	手術	手術	手術
					松本 光希	
皮膚科（完全予約制）	午前	田中 憲一郎	松尾 敦子	松尾 敦子 訪問診療	城野 昌義 再診	松尾 敦子
		松﨑 恵里奈	松﨑 恵里奈	田中 憲一郎	田中 憲一郎	松﨑 恵里奈
	午後		手術		回診	手術
緩和ケア科	午前	橋口 清明	橋口 清明	橋口 清明	橋口 清明	橋口 清明
腫瘍精神科	午前	木下 裕子	木下 裕子	木下 裕子	木下 裕子	
麻酔科 ペインクリニック（完全予約制）	午前	洲崎 祥子		田口 裕之		田口 裕之
		田口 裕之（術前診療）		洲崎 祥子（術前診療）		田口 裕之（術前診療）
禁煙外来（予約制）	午前					田口 裕之
放射線科（幸秀明・西東葉子）	午前	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
	午後	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医